

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

生命と環境9「地球と風土」受講生

本井 典子 (文教育学部 言語文化学科2年生)

この授業の大きなテーマは、地域研究について、それから地域研究とはどういうものなのだろうかというものを風土との関係から見ていくという授業でした。

授業の方は、全部で全 15 回ありまして、最初の方は基礎的なこと、本当にイントロダクションで、地域研究とは何だろうかということから始まり、先生のご専門であるオセアニア地域、ハワイやバリ島などの説明。それからその後に和辻哲郎の風土の話、オギュスタン・ベルクの話の話を交えて、最後に水俣病、公害の問題も含めて話が進んでいきました。

授業全体としては、先生の持ってきてくださった資料、ビデオ、スライドを用いた授業だったので、視覚的に訴えるものが多く、大変にあきなくて楽しい授業であったと思います。

授業を通して、全体的なのですが、地域を見る目というものを考えさせられたものだなと思いました。私たちがほかの地域を見るときには、一体どういう考えで見ているのか。そこに偏見、西洋中心的なまなざしというものがあるのではないだろうか、相手を他者化して見ているのではないだろうかということを考えさせられる授業でした。

これはすごく個人的な意見なのですが、そういう意味で、この授業全体としては、私たちが地域研究だけではなくて、相手、他者を見る目というものを考えさせられる上で、とてもよかった授業だなと思いました。あと、資料がとても多かったので、ビデオなどがあったのは、すごくあきなくて、1年生にもよかったのかなと思います。

ただ、個人的に私が思うのは、ちょっと授業の内容が盛りだくさんすぎて、1年生にとっては、ちょっと難しすぎたかなという感じがありました。特に地域研究の話、地域の話、風土の話だったのですが、和辻哲郎の風土を出すまでは多分よかったのだと思うのですが、そこからベルクの話にまで発展してしまうと、理系の方もいっぱいいていたので、1年生さんにとっては難しすぎたのではないかなと思います。

それから、内容が多すぎたことにも関係するのですが、結局、最終的に地域研究ってどういうことだろうか、私たちがほかの地域を見る目というのはどういうものなのだろうかという結論にまでたどり着けなかったというのが、ちょっと残念なところだったなと思いました。

お茶の水女子大学
Ochanomizu University